

建設通信新聞

日測協四国支部

創立50周年祝う

清水会長が記念講演も

日本測量協会四国支部は2日、高松市のホテルパールガーデンで「四国支部創立50周年記念行事」を開いた。写真。同支部は1976年5月に正会員数198人で発足。94年に400人を突破し、現在は450人が参画している。

高木方隆支部長は、式典あ



いさつで「測量技術の進歩は目を見張るものがある。しかし、始めの一步は現場に出ていて人と話すことにある。どんなに技術が進展しても、人や自然と向き合う仕事は生身の人間がやらなければいけ

ない」と、協会の役割や次の50年への決意を述べた。

河瀬和重国土地理院長と奥田晃久四国地方整備局長が来賓あいさつしたほか、永年継続会員らを表彰した。

式典に先立って開かれた記念講演会には、同協会の清水英範会長が『日本の土地政策―その法的体系と近年の動向』をテーマに登壇した。社会・経済活動が展開される多くの土地が私有財産であるとし、そのことに起因する問題や課題に対応するための公共政策を土地政策と定義付けた。その上で、地上権と土地の借地権の違い、借地借家法や大深度地下法による所有権の制限などを解説した。